

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-514174 (P2005-514174A)

【公表日】平成 17 年 5 月 19 日 (2005.5.19)

【年通号数】公開・登録公報 2005-019

【出願番号】特願 2003-559577 (P2003-559577)

【国際特許分類】

**A 6 1 M 1/14 (2006.01)**

**A 6 1 K 9/08 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 M 1/14 5 1 1

A 6 1 K 9/08

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 10 月 4 日 (2005.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2 部分の透析溶液であって、該 2 部分の透析溶液は、以下：

ピカルボネート濃縮物を含む、第 1 成分；

電解質濃縮物を含む、第 2 成分；

を含み、そして

該第 1 成分および該第 2 成分各々が、生理学的に受容可能な量のナトリウムを含む、2 部分の透析溶液。

【請求項 2】

前記ピカルボネート濃縮物および前記電解質濃縮物が、約 160 mmol / L 以下の等モル量のナトリウムを含む、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 3】

前記ピカルボネート濃縮物および前記電解質濃縮物が、約 100 mmol / L ~ 約 160 mmol / L の範囲の等モル量のナトリウムを含む、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 4】

前記ピカルボネート濃縮物および前記電解質濃縮物各々が、約 0.1 mmol / L ~ 約 5 mmol / L の範囲の生理学的に受容可能な量のカリウムを含む、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 5】

前記第 1 成分がカリウムを含まず、そして前記第 2 成分がカリウムを含む、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液であって、ここで前記第 1 成分および前記第 2 成分の混合溶液が、約 100 mmol / L ~ 約 160 mmol / L のナトリウム、約 0 mmol / L ~ 約 2.0 mmol / L のカルシウム、約 0 mmol / L ~ 約 1.5 mmol / L のマグネシウム、約 0 mmol / L ~ 約 5 mmol / L のカリウム、約 20 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のピカルボネート、約 70 mmol / L ~ 約 130 mmol / L の

クロリド、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のラクテート、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のアセテートおよび約 0 g / L ~ 約 2.5 g / L の無水グルコースを含む、2 部分の透析溶液。

【請求項 7】

前記第 1 成分が、約 7.2 ~ 約 7.9 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 3.0 ~ 約 5.0 の範囲の pH を有する、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 8】

前記第 1 成分が、約 7.4 ~ 約 7.6 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 4.3 ~ 約 4.5 の範囲の pH を有する、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 9】

前記第 1 成分が、約 8.6 ~ 約 9.5 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.7 ~ 約 2.2 の範囲の pH を有する、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 10】

前記第 1 成分が、約 8.9 ~ 約 9.0 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.9 の pH を有する、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 11】

前記第 1 成分および前記第 2 成分が、一緒に混合されて混合溶液を形成するまで、互いから別々に保存される、請求項 1 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 12】

前記第 1 成分が、マルチチャンバー容器の第 1 チャンバー中に保存され、そして前記第 2 成分が、該マルチチャンバー容器の第 2 チャンバー中に保存される、請求項 11 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 13】

前記第 1 チャンバーおよび前記第 2 チャンバーが、前記第 1 成分および前記第 2 成分が混合されて前記混合溶液を形成し得るように適切に連結される、請求項 12 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 14】

前記第 1 チャンバーが、混合前に前記第 1 成分を患者と直接流体連絡し得る出口ポートを含み、ここで前記第 2 成分は、混合前に該出口ポートと直接流体連絡していない、請求項 12 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 15】

前記混合溶液が、血液濾過過程の一部として使用され得る透析液を含む、請求項 11 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 16】

前記混合溶液が、継続的な腎代償処置中に患者に投与され得る輸液を含む、請求項 11 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 17】

患者に注入されるように設計される 2 部分の透析溶液であって、該 2 部分の透析溶液は、以下：

カリウムを含まない、ピカルボネート濃縮物を含む第 1 成分；

カリウムを含む、電解質濃縮物を含む第 2 成分；

を含み、そして該第 1 成分および該第 2 成分が、該第 2 成分を該第 1 成分と混合せずに患者に物理的に注入し得ないように構成され、そして配置される、2 部分の透析溶液。

【請求項 18】

請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液であって、ここで前記第 1 成分および前記第 2 成分の混合溶液が、約 100 mmol / L ~ 約 160 mmol / L のナトリウム、約 0 mmol / L ~ 約 2.0 mmol / L のカルシウム、約 0 mmol / L ~ 約 1.5 mmol / L のマグネシウム、約 0.1 mmol / L ~ 約 5 mmol / L のカリウム、約 20 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のピカルボネート、約 70 mmol / L ~ 約 130 mmol

/ L のクロリド、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のラクテート、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のアセテートおよび約 0 g / L ~ 約 2.5 g / L の無水グルコースを含む、2 部分の透析溶液。

【請求項 19】

前記ビカルボネート濃縮物および前記電解質濃縮物が、約 160 mmol / L 以下の等モル量のナトリウムを含む、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 20】

前記第 1 成分が、約 7.2 ~ 約 7.9 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 3.0 ~ 約 5.0 の範囲の pH を有する、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 21】

前記第 1 成分が、約 7.4 ~ 約 7.6 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 4.3 ~ 約 4.5 の範囲の pH を有する、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 22】

前記第 1 成分が、約 8.6 ~ 約 9.5 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.7 ~ 約 2.2 の範囲の pH を有する、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 23】

前記第 1 成分が、約 8.9 ~ 約 9.0 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.9 の pH を有する、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 24】

前記第 1 成分および前記第 2 成分が、一緒に混合されて混合溶液を形成するまで、互いから別々に保存される、請求項 17 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 25】

前記第 1 成分が、マルチチャンバー容器の第 1 チャンバー中に保存され、そして前記第 2 成分が、該マルチチャンバー容器の第 2 チャンバー中に保存される、請求項 24 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 26】

前記第 1 チャンバーおよび前記第 2 チャンバーが、前記第 1 成分および前記第 2 成分が混合されて前記混合溶液を形成し得るように適切に連結される、請求項 25 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 27】

前記第 1 チャンバーが、前記第 1 成分が混合前に患者と直接流体連絡し得る出口ポートを含む、請求項 25 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 28】

前記混合溶液が、血液濾過過程の一部として使用され得る透析液を含む、請求項 24 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 29】

前記混合溶液が、継続的な腎代償処置中に患者に投与され得る輸液を含む、請求項 24 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 30】

2 部分の透析溶液であって、該 2 部分の透析溶液は、以下：

ビカルボネート濃縮物を含む、第 1 成分；

電解質濃縮物を含む、第 2 成分；

を含み、そして

該第 1 成分および該第 2 成分各々が、生理学的に受容可能な量のカリウムを含む、2 部分の透析溶液。

【請求項 31】

前記生理学的に受容可能な量のカリウムが約 0.1 mmol / L ~ 約 5 mmol / L の範囲に及ぶ、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 32】

請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液であって、ここで前記第 1 成分および前記第 2 成

分の混合溶液が、約 100 mmol / L ~ 約 160 mmol / L のナトリウム、約 0 mmol / L ~ 約 2.0 mmol / L のカルシウム、約 0 mmol / L ~ 約 1.5 mmol / L のマグネシウム、約 0.1 mmol / L ~ 約 5 mmol / L のカリウム、約 20 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のピカルボネート、約 70 mmol / L ~ 約 130 mmol / L のクロリド、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のラクテート、約 0 mmol / L ~ 約 45 mmol / L のアセテートおよび約 0 g / L ~ 約 2.5 g / L の無水グルコースを含む、2 部分の透析溶液。

【請求項 33】

前記ピカルボネート濃縮物および前記電解質濃縮物が、約 160 mmol / L 以下の等モル量のナトリウムを含む、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 34】

前記第 1 成分が、約 7.2 ~ 約 7.9 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 3.0 ~ 約 5.0 の範囲の pH を有する、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 35】

前記第 1 成分が、約 7.4 ~ 約 7.6 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 4.3 ~ 約 4.5 の範囲の pH を有する、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 36】

前記第 1 成分が、約 8.6 ~ 約 9.5 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.7 ~ 約 2.2 の範囲の pH を有する、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 37】

前記第 1 成分が、約 8.9 ~ 約 9.0 の範囲の pH を有し、そして前記第 2 成分が、約 1.9 の pH を有する、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 38】

前記第 1 成分および前記第 2 成分が、一緒に混合されて混合溶液を形成するまで、互いから別々に保存される、請求項 30 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 39】

前記第 1 成分が、マルチチャンバー容器の第 1 チャンバー中に保存され、そして前記第 2 成分が、該マルチチャンバー容器の第 2 チャンバー中に保存される、請求項 38 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 40】

前記第 1 チャンバーおよび前記第 2 チャンバーが、前記第 1 成分および前記第 2 成分が混合されて前記混合溶液を形成し得るように適切に連結される、請求項 39 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 41】

前記第 1 チャンバーが、混合前に前記第 1 成分を患者と直接流体連絡し得る出口ポートを含み、ここで前記第 2 成分は、混合前に該出口ポートと直接流体連絡していない、請求項 39 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 42】

前記混合溶液が、血液濾過過程の一部として使用され得る透析液を含む、請求項 38 に記載の 2 部分の透析溶液。

【請求項 43】

前記混合溶液が、継続的な腎代償処置中に患者に投与され得る輸液を含む、請求項 38 に記載の 2 部分の透析溶液。